

# 2023年度満足度調査(英語科)

## 検証内容

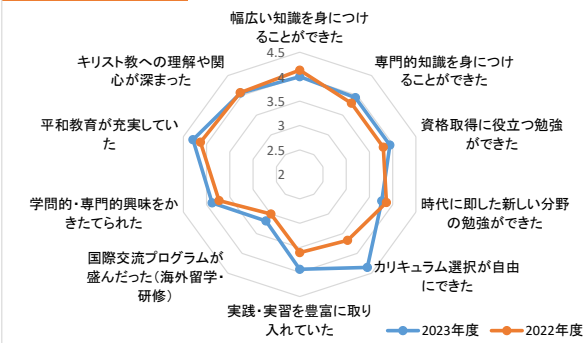
今年度卒業の学生を対象として満足度調査を行った。質問にはカリキュラムの適切性や施設・設備・制度に関するもの、学生生活に関する質問を設けている。得られた回答は集計し項目毎の平均値を前年度のデータと比較した。また、本調査では、学習成果の到達度を学生に自己評価してもらっており、その結果と他の学内データと照らし合わせて総合的に分析した。

回答率が50%と前年度の32%より増加しているものの、まだ低い回答率といえるため前年度と同様に調査結果は全体を表わしているとは言い難い。

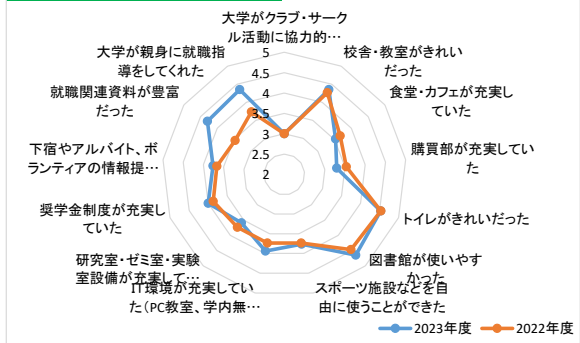
【アンケート回収率50.0%】(前年度32.6%)

## 【カテゴリ毎の満足度】

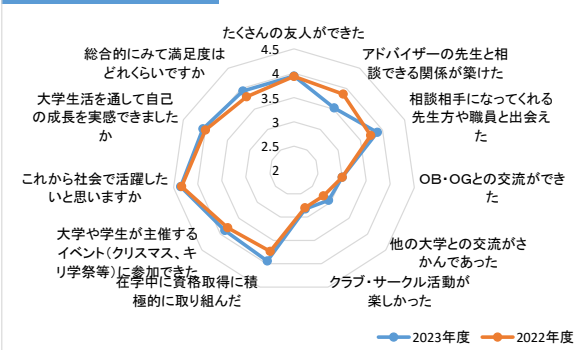
### カリキュラムの適切性



### 施設・設備・制度に関する満足度



### 学生生活に関する満足度



各数値の基準

満足：5、やや満足：4、どちらともいえない：3、やや不満：2、不満：1

そう思う：5、ややそう思う：4、どちらともいえない：3、あまりそう思わない：2、そう思わない：1

### 【学生からのコメントのテキストマイニング】

《一番学びの大きかったこと》

理解 観光 知識  
 学ぶ キリスト教  
 キリスト教学 勉強方法 英語は 友人ゲストスピーカー

《早くに知っておきたかったことやつまずきを感じたこと》

進路 個人面談 英検対策  
 社会人 サポート 就職活動  
 アドバイザー 数ヶ月

それぞれの項目の平均値を出し、前年度の平均値とその変化率を計算し違いをみていきます。

#### 【カリキュラムの適切性】

10項目中、前年度より上がったのが7項目、下がったのが3項目で変化率が5%を超える項目は次の3つであった。

- ・カリキュラム選択が自由になった(18.7%)
- ・実践・実習を豊富に取り入れていた(9.5%)
- ・国際交流プログラムが盛んだった(海外留学・研修)(5.9%)

評価が上がった項目が下がった項目の2倍以上あり、カリキュラムの適切性については比較的向上したと考えられる。

#### 【施設・設備・制度に関する満足度】

13項目中、前年度より上がったのが9項目、下がったのが4項目で変化率が5%を超える項目は次の4項目であった。

- ・購買部が充実していた(6.8%)
- ・IT環境が充実していた(PC教室、学内無線LAN環境等)(5.6%)
- ・就職関連資料が豊富だった(23.9%)
- ・大学が親身に就職指導をしてくれた(16.6%)

評価が上がった項目が下がった項目の2倍以上あり、施設・設備・制度については比較的向上したと考えられる。特に就職支援の項目では変化率の幅が大きく上がっており、これらの学生支援では前年度より大きく向上しているといえる。

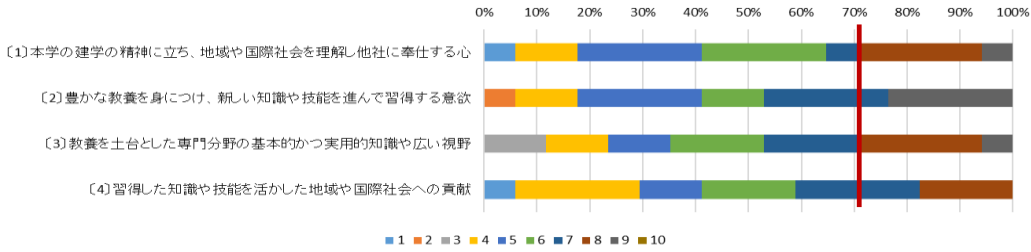
#### 【学生生活に関する満足度】

11項目中、前年度より上がったのが10項目、下がったのが1項目で変化率が5%を超える項目は次の3項目であった。

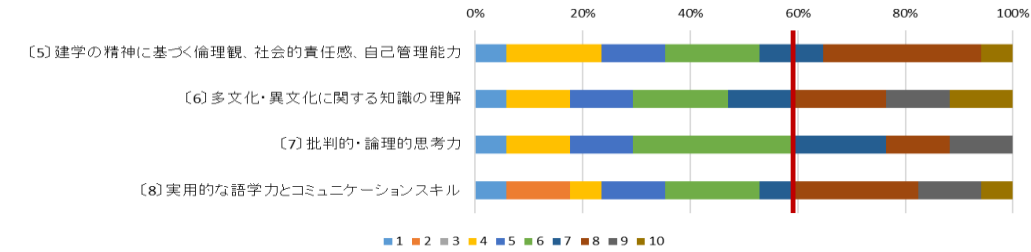
- ・アドバイザーの先生と相談できる関係が築けた(-8.7%)
- ・他の大学との交流がさかんであった(5.0%)
- ・在学中に資格取得に積極的に取り組んだ(5.6%)

評価が上がった項目が下がった項目に比べ著しく多く、学生生活については評価が高いと考えられる。しかし「アドバイザーの先生と相談できる関係が築けた」の評価が前年度と比較して下がっており、今後の相談体制について見直しが必要と考えられる。

### 学習成果の自己評価(短期大学)



### 学習成果の自己評価(英語科)



学生に対し本学で定める学習成果が卒業時にどれだけ身についたかを10段階で評価してもらった。

#### 【短期大学の学習成果に対する自己評価】

学習成果[2][4]は自己評価8以上が約17%であるのに対し、[1][3]では自己評価8以上が約30%と比較的評価が高い。特に[1]は自己評価5以上の学生が82%と評価を高くつけた学生が多い。

#### 【英語科の学習成果に対する自己評価】

学習成果[6][8]は自己評価の割合が類似しており、自己評価8以上がどちらも41%と大きい。しかし、自己評価4以下についてみると、学習成果[8]が23%なのに対し、学習成果[6]は17%と若干自己評価が低い。多文化・異文化への知識習得が語学力に直接つながらないという現状を表している。自己評価[6]については自己評価9、10の割合も大きく、カリキュラムに対しての満足度も高いと考えられる。」

# 2023年度満足度調査(保育科)

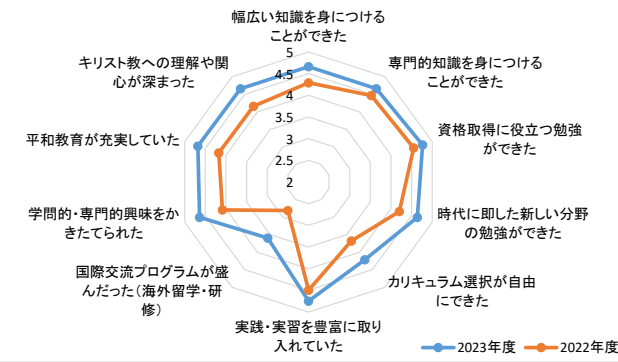
## 検証内容

今年度卒業の学生を対象として満足度調査を行った。質問にはカリキュラムの適切性や施設・設備・制度に関するもの、学生生活に関する質問を設けている。得られた回答は集計し項目毎の平均値を前年度のデータと比較した。また、本調査では、学習成果の到達度を学生に自己評価してもらっており、その結果と他の学内データと照らし合わせて総合的に分析した。

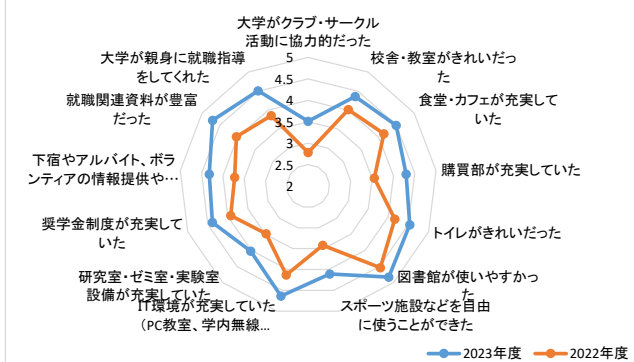
【アンケート回収率83.9%】(前年度80.2%)

### 【カテゴリ毎の満足度】

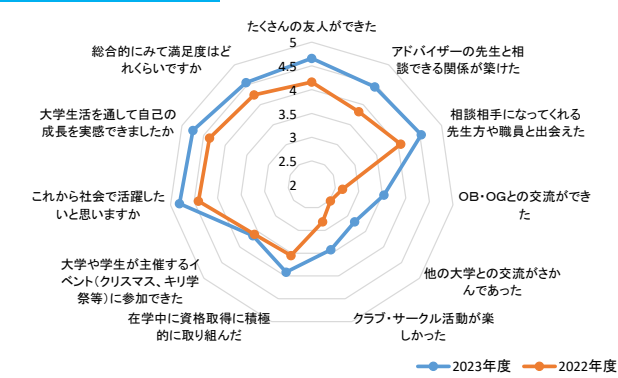
#### カリキュラムの適切性



#### 施設・設備・制度に関する満足度



#### 学生生活に関する満足度



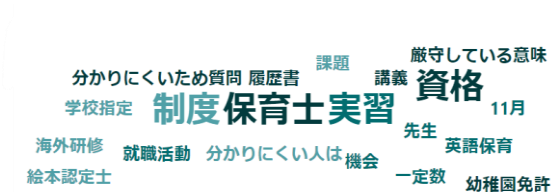
各数値の基準  
 満足:5、やや満足:4、どちらともいえない:3、やや不満:2、不満:1  
 そう思う:5、ややそう思う:4、どちらともいえない:3、あまりそう思わない:2、そう思わない:1

#### 【学生からのコメントのテキストマイニング】

《一番学びの大きかったこと》



《早くに知っておきたかったことやつまづきを感じたこと》



それぞれの項目の平均値を出し、前年度の平均値とその変化率を計算しその変化率が5%以上のものを下記に列挙しました。

#### 【カリキュラムの適切性】

- 10項目中、すべての項目が前年度より上がっており、変化率が5%を超える項目は次の7つであった。  
 ・幅広い知識を身につけることができた(8.6%) / ・時代に即した新しい分野の勉強ができた(10.4%) / ・カリキュラム選択が自由にできた(14.4%)  
 ・実践・実習を豊富に取り入れていた(5.6%) / ・国際交流プログラムが盛んだった(海外留学・研修)(27.9%) / ・学問的・専門的興味をかきたてられた(13.5%)  
 ・平和教育が充実していた(12.1%) / ・キリスト教への理解や関心が深まった(12.0%)

#### 【施設・設備・制度に関する満足度】

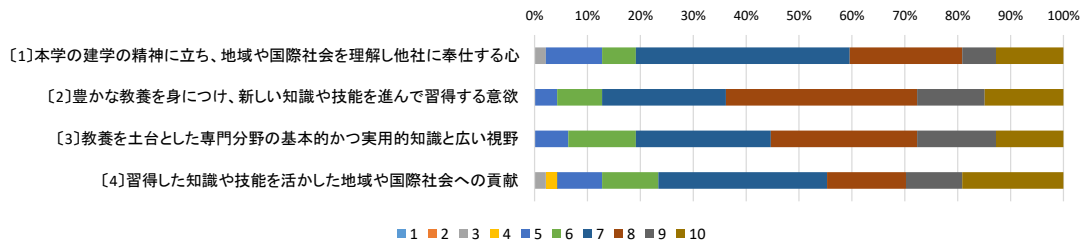
- 13項目中、すべての項目が前年度より上がっており、すべての項目が変化率5%を超えている。  
 ・大学がクラブ・サークル活動に協力的だった(26.2%) / ・校舎・教室がきれいだった(8.6%) / ・食堂・カフェが充実していた(8.3%)  
 ・購買部が充実していた(21.0%) / ・トイレがきれいだった(9.0%) / ・図書館が使いやすいかつ(6.5%) / ・スポーツ施設などを自由に使えた(20.1%)  
 ・IT環境が充実していた(PC教室、学内無線LAN環境等)(12.3%) / ・研究室・ゼミ室・実験室設備が充実していた(15.6%) / ・奨学金制度が充実していた(11.6%)  
 ・下宿やアルバイト、ボランティアの情報提供や紹介が充実していた(16.0%) / ・就職関連資料が豊富だった(16.7%) / ・大学が親身に就職指導をしてくれた(17.0%)

#### 【学生生活に関する満足度】

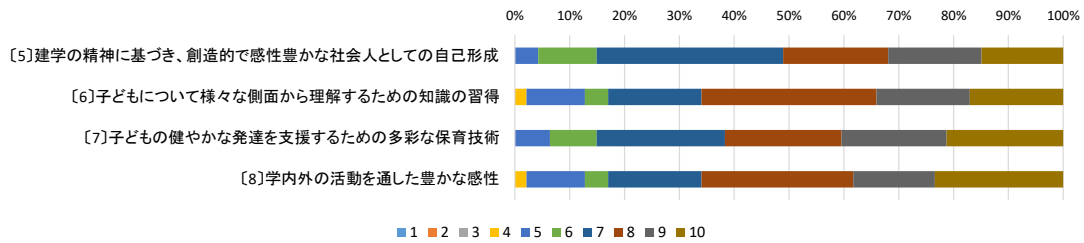
- 11項目中、すべての項目が前年度より上がっており、変化率が5%を超える項目は次の8項目であった。  
 ・たくさんの友人ができた(12.0%) / ・アドバイザーの先生と相談できる関係が築けた(16.2%) / ・相談相手になってくれる先生方や職員と出会えた(11.7%)  
 ・OB・OGとの交流ができた(33.2%) / ・他の大学との交流がさかんであった(26.6%) / ・クラブ・サークル活動が楽しかった(21.8%) /  
 ・これから社会で活躍したいと思いますか(9.1%) / ・大学がクラブ・サークル活動に協力的だった(26.2%)  
 ・大学生活を通して自己の成長を実感できましたか(8.8%) / ・総合的にみて満足度はどれくらいですか(7.2%)

カリキュラムの適切性、施設、学生生活などのさまざまなカテゴリーにおける全体的な満足度が前年度と比較してすべての項目で向上しており、学生からの評価が高いといえる。また変化率も20~30%台の項目もみられることから、前年度からの改善があると考えられる。

### 学習成果の自己評価(短期大学)



### 学習成果の自己評価(保育科)



学生に対し本学で定める学習成果が卒業時にどれだけ身についたかを10段階で評価してもらった。

#### 【短期大学の学習成果】

上のグラフより、学習成果[1][2][3]では自己評価7以上がどれも80%を超えており、高い自己評価を得ている。学習成果[4]でも72%と自己評価は高い結果となっている。

#### 【保育科の学習成果】

上のグラフより、学習成果[5][6][7][8]のすべてにおいて自己評価7以上が約84%と自己評価が高い。また、学習成果[6][7][8]においては自己評価8以上が6割程度いることから半分以上の学生が、本学の定めた学習成果について「みについている」と評価していることがわかる。自己評価を4以下とする学生が、6%以内にとどまっていることから、現状の学習成果の習得度については現状特に問題はみられない。